

令和7年度

第2回

北広島市公共施設等総合管理計画策定検討委員会

議 事 録

令和7年5月19日(月)

市役所3階 3D会議室

北広島市 財務部 契約管財課

日 時	令和7年5月19日(月)18時00分～19時30分
会 場	市役所3階 3D会議室
出席委員 (敬称略)	安藤 淳一 内海 洋 小池 隆史 佐藤 秀彦 千葉 直樹 西村 宣彦 山口 規子
欠席委員 (敬称略)	天羽 浩 牛田 英哲
事 務 局	財務部長 高橋 直樹 契約管財課長 花田 秀樹 契約管財課主査 木村 勇人 契約管財課主事 宮本 歩侑 地方公共団体金融機構アドバイザー 川崎 香成
傍 聴 者	1名
会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 地区別の状況及び今後の公共施設マネジメントの方向性 (2) 次期計画の方向性について (3) その他 3 閉 会 ※配布資料 ・地区別の状況及び今後の公共施設マネジメントの方向性 ・市民アンケート調査結果 ・公共施設等総合管理計画の活用について ・第1回北広島市公共施設等総合管理計画策定検討委員会議事録

1 開 会

委員の過半数が出席していることから、委員会は成立していることを確認。
委員会を公開とする旨確認し、傍聴人を会場へ案内。

2 議 事

議事録署名委員に内海委員、山口委員を指名

(1) 地区別の状況及び今後の公共施設マネジメントの方向性
事務局から資料について説明

(2) 次期計画の方向性について(意見交換)

- ・北広島市は5つの地区に分かれているので、それぞれの地区毎に何とか維持管理できるような方法を検討していけると良いと考える。地区毎の特性もあるので、すべての地区を一律の考え方で再編するのは難しいのではないかと。
- ・地区毎に状況が異なっているので評価の数値だけで方針を決定するというにはならないと感じるが、ある程度客観的な指標を見える化して検討の土台に上げる方法はやっていかなくてはならないと思う。
- ・教育施設は市と教育現場では若干見立てが異なる気がする。児童生徒数が減少傾向であっても子どもたちに与える教育の質は変えてはならないといった観点から見ると老朽化の進行や少子化の影響といった定量的なもののみで検討するのは難しいと感じる。
- ・次期計画内では定量的な評価を検討の土台とするが、最終的に判断する定性的部分についてどのように計画に落とし込むかを考えないといけない。
- ・公共施設カルテによる評価データは更新や長寿命化の優先順位付けといった役割もあると思う。
- ・老朽化の進行というワードが会議でも多く出てきているが、一昔前は町内会活動も集まる機会が多く、地区の集会所が活用されることが多かった印象であるが、近年町内会活動にも変化が見られ今は一部の方のみに利用されている状況であるので、将来的に一定程度の整理は仕方ないことであると感じる。
- ・地区別に考えても最終的には市全体で判断しなくてはならないため、5地区の特徴を踏まえた上で全体の方向性を見ていくのが良い。
- ・公共施設は財政的にも削減していかなくてはならないのは総論として間違いないが、交通インフラの充実が今後の課題になると感じている。
- ・北広島市はボールパーク効果もあり、注目度も高く住みたいと考える方が以前よりは増えていると思うので、注目されている中で削減だけではなく、少し前向きな投資も必要だと思う。一方で先のことを考えずにやりすぎてしまうと将来世代へ重荷になってしまうので、メリハリを持った施策が必要。
- ・数値目標は次期計画でも定め、進捗管理を行っていく。

・今後の方向性として、まずは施設の優先順位を付け、機能の集約を行っていくべきである。全国的にもそのような傾向となっているため、北広島市も現在の財政状況に見合った計画としていけると良い。

(3) その他

事務局から次回の委員会(8月予定)のスケジュールを説明。

3 閉 会